

# 木曾の木の実に 室内飾りの作り方

## 『木の実に触れる』

ヒノキ、カラマツ、アカマツ、クルミ・・・

自然の木の実はそれぞれが独特の表情を持っています。  
自然の木の実のもつ愛らしさ、温もりなどに触れながら、「樹木の香り・精気」を感じています。

野山の花や木の実だけではなく、幹・枝・皮・葉・根・種も余すところなくすべての素材を組み合わせ、優しさや力強さ、愛らしさ、温もりなどを備え持った統一されたひとつの新しい造形美を作ります。木の実を洗浄・消毒・乾燥させたのち、一つ一つにワイヤーをかけ、素材と形を色々に変化させながら組み合わせます。

この技法は、ドイツに古くから伝わる身近な素材を活用した素朴で格調高い民芸クラフトであり、日本では“トロッケンゲビンデ”と言われ、森本禮子先生がその普及活動をなさっておられます。

## I) クラントツ

(環の形の壁飾り)

### ①ワイヤーリング

木の実の種類に適した太さのワイヤーで、一つ一つワイヤーかけをします。



### ②ワイヤーのみで編む

基本は、木の実をバランスよく、ワイヤーのみで編み込みます。近年は、つるやすチロールで成形された環型の土台に右の写真と同様に、挿す場合もあります。



### ③形を整えて完成



## II) ピラミード形のクーゲルバウム

(円錐形などのテーブル飾り)

### ①ワイヤーリング

ワイヤーの長さは、クラントツより短くします。



### ②ワイヤーを挿す

三角錐などのスチロールにバランスよく挿します。



### ③形を整えて完成



標高 1,100m に在る木曾山麓工房では、夏は 28℃・冬は -17℃、年間の温度差が約 45℃もあるため、グルーガンでの接手法では、木の実が脱落・落下することがあるため、工房「リスの柱」では、すべての花や木の実にワイヤーをかけています。  
末永くお楽しみ頂ける室内装飾品を作っています。